
老人と英雄

六市

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

老人と英雄

【Nコード】

N9835H

【作者名】

六市

【あらすじ】

最愛の家族を失い失意のうちに日々を暮らしていた老人、田川義明は気が付くと別の世界にいた。そこで孫娘そっくりな少女と出会った。少女の名は『ジャンヌダルク』義明はジャンヌを守る為に立ち上がる。

家族の元へ（前書き）

史実とは異なるというか全く違うようになるかもしれません。

家族の元へ

ある昼下がりの並木道、一人の老人が歩いていた。

見た感じにはもう、七十代後半くらいに見えるが腰が少しも曲がっておらず、杖も持っていないところから、ひよつとしたらもう少し、若いのかもしれない。

老人の名は『田川 義明』。

今年で七十三になる誰から見ても健康的な立派なじい様だった。

「田川さん。」

突然後ろから、名前を呼ばれ義明は振り返ると義明より、歳を喰つていそうな黒い袈裟を着た坊さんが原付きを押しながら義明に近づいて来ていた。

「これは住職さん、買い物ですか？」

「ええ、お線香をきらしましてね。」

いつもは弟子に頼むのですが、健康の為にたまにはと、住職は好々爺といった感じに笑った。

「ところで今日も御家族の所へ？」

「えっ、ええ。」

「そうですね。皆さんもきつと喜ばれますよ。では、私はこれで」

そう言つと住職は原付きに跨がり颯爽と店へ向かい走り去って行った。

「・・・喜ぶか。」

一言、 眩き義明はまた、 歩き始めた。
最愛の家族の眠る場所・・・墓へと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9835h/>

老人と英雄

2010年10月10日19時46分発行